

会長挨拶

三重県在宅保健師の会

会 長 明石 悦子



と思います。

この度、三重県在宅保健師の会発足から二十七年目となります「ひまわりの会」会長を務めさせていただくことになりました。副会長と幹事四名の計六名の新役員体制で会の発展のため尽力致しますので、どうぞよろしくお願い致します。七月～八月に咲くひまわり（向日葵）の花言葉は、「あなたを幸せにします・情熱・憧れ」等です。地域の人々に寄り添う保健師のポジティブさを表しています。先輩から引き継がれてきた会を仲間のいる居場所として親睦を深め、WHO憲章のウェルビーイングで自らのやりがいとつながりで地域の保健活動を支援していきましょう。

さて、令和五年度国保連合会の

在宅保健師の会を活用した特定健診等受診促進事業では、十市町十一名の会員が派遣されました。令和四年度の三重県の健診受診率は四十五・二％全国七位、保健指導は十四・六％で前年より低下し保健指導実施率の向上が課題となりました。市町から皆様への期待は大きく、今まで培われたスキルを活かし、人工知能AIでは難しい心を通じ面接技術・保健指導を発揮していただけたと思います。令和六年度の派遣にご協力していただく会員の皆様には、市町スタッフと事業を振り返りながら量的・質的評価をよりしくお願い致します。

能登半島地震をはじめ、国内外では地震が頻発していると感ずますが、これはデジタル情報に触れ、社会現象として経験するようになったためであり、気象庁は統計上は「普通の頻度」とのことです。しかし、大地震はいつどこで起きてもおかしくないと言われてます。皆様も日頃の備えを充実させるきっかけにしていきたいと思います。

最後に、国保連合会事務局には、全面的なご支援に感謝致しますとともに、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

令和6年度在宅保健師の会（ひまわりの会）総会

4月22日、三重地方自治労働文化センター 4階 大会議室において、在宅保健師の会総会が開催されました。総会は瀬川副会長の司会進行により、松尾会長の挨拶、三重県国保連合会 植村事務局長の挨拶の後、定足数報告（会員54名、出席19名、委任状24名）が行われました。その後、会長を議長に選出し、瀬川副会長から下記議案に関する説明を行い、原案通り承認されました。また、総会終了後、新旧役員と国保連合会事務局の挨拶が行われました。

議案

- ・ 三重県在宅保健師の会（ひまわりの会）会則の一部を改正する会則について
- ・ 令和5年度三重県在宅保健師の会事業報告について
- ・ 三重県在宅保健師の会役員の選定（案）について
- ・ 令和6年度三重県在宅保健師の会事業計画（案）について

令和6年度役員紹介

会 長	明石 悦子	（亀山市）
副会長	瀬川 博子	（菰野町）
幹 事	日野 里和子	（松阪市）
	山田 法子	（鈴鹿市）
	三浦 みさ子	（津 市）
	斉藤 由起子	（菰野町）



第1回 研修会

総会の後、三重県医療保健部健康推進課 副参事兼健康対策班長の野村由里子氏から第3次三重の健康づくり基本計画（ヘルシーピープルみえ・21）、歯と口腔の健康づくり（第3次みえ歯と口腔の健康づくり基本計画）についてご報告いただきました。引き続き、三重県桑名保健所 所長の芝田登美子氏から「フレイル予防のためのオーラルフレイル対策」、松阪地区歯科医師会 口腔ケアステーション管理者 歯科衛生士の近田紀子氏から「オーラルフレイルを予防し健康寿命を延ばしましょう～訪問歯科衛生士の立場から～」と題してご講演いただきました。



野村 由里子 氏



芝田 登美子 氏



近田 紀子 氏

参加者の声...

令和6年度第1回研修会は、オーラルフレイルの予防・対策がテーマで、人のライフコースにおいて歯科保健の果たす役割がいかに大きいかを実感する研修会でした。

桑名保健所の芝田先生のお話からは、オーラルフレイルに陥らないためには幼い頃からの食習慣や歯の手入れが重要であること、妊娠期の歯周病は低体重児出生、早産の危険があること、オーラルフレイルは早期に発見し、対策を行うことで改善が可能であり、全身の健康状態の改善にもつながることが理解できました。私は現在自治体の会計年度任用職員として働いています。保健センターの活動は妊婦さん、赤ちゃんからお年寄りまでのさまざまな年代の人に出会います。私が保健師となった時代よりは歯科保健に対する住民の意識は格段に高まり、対策も進んでいますが、一方で少子高齢化は加速度的に進行し、次世代育成、健康寿命の延伸が大きな課題となっています。今回学んだオーラルフレイルのチェック項目や、「かかりつけ歯科医をもつ」「口の些細な衰えに気づいた時点で対

策を行う」「バランスのとれた食生活」「歯の手入れ」を住民と出会う機会を捉えてお伝えしていきたいと思いました。

また、口腔ケアステーションで訪問歯科衛生士として第一線で活躍されている近田先生からは実際の取り組み事例を聞かせていただきました。認知機能や全身状態、口腔の機能低下があっても他の職種と連携しながら的確なアセスメントのもと口腔ケアを実践され、機能改善だけでなく本人や家族の喜び、生きがいにつながった大変素晴らしい活動だと思いました。対象者の生きてきた人生で培われた価値観や信念を会話の中からキャッチし、対象者と一緒に考え大変な状況に直面しながらも熱意をもって取り組まれている姿勢に大変感銘を受け、私も頑張ろうと元気をいただきました。

講師の先生方、研修会を企画いただきました役員の皆様、事務局の皆様、ありがとうございました。

三浦 みさ子

令和6年度 視察研修の ご案内

日時：令和6年9月25日(水) 午前9時30分～12時(予定)

場所：伊勢市防災センター

内容：【見て】【体験】して防災に関する知識や技術を身につけ、【もしも】の災害に備える。

ぜひこの機会に普段できない体験を!!

令和5年度 都道府県在宅保健師等会全国連絡会概要報告

昨年度に引き続き、資料と解説録画を国保中央会からDVDにて受領しましたので、概要を報告いたします。

講演

地域保健施策を取り巻く国の動向について

厚生労働省健康・生活衛生局健康課 保健指導室室長 五十嵐 久美子 氏

1. 各種計画の推進

令和5年度は、特定健康診査等実施計画、データヘルス計画、健康増進計画、介護保険事業計画等各種計画の見直しが行われ、6年度からは新たな計画に基づいた保健事業等が推進されていくこととなっている。特定健診・特定保健指導では、より質の高い保健指導を対象者に還元することができるよう、特定保健指導の見える化の推進など見直しが行われた。

また、令和6年度から開始する健康日本21(第三次)では、多様化する社会の中で「誰一人取り残さない健康づくり」を目標に、女性の健康の明記や自然に健康になれる環境づくりなど新たな視点を取り入れて、より実効性を持つ取組の推進に重点をおく。

2. 健康危機への対応

これまで、地震や台風等による大規模災害では、被災都道府県からの要請を受け厚生労働省が応援調整を行い、各地に保健師等支援チームを派遣してきた。災害対応における保健師の役割として、被災者の健康支援を中心とし、各自治体の災害対策本部と連動し、関係者との連携することが重要となるため、平時からの関係者との連携が期待されている。

IHEAT（感染症の蔓延時等に地域の保健師等専門職が保健所等の業務を支援する仕組み）が、地域保健法の改正に伴い法定化された（令和5年4月施行）。IHEAT要員は、支援の要請があった際は、自発的意思により支援を行い、速やかに実施できるように研修を受講することとなっている。

また、コロナ禍での保健師の活躍が評価され、「地域保健対策の推進に関する基本的な指針（令和5年3月改正）」において、健康危機管理体制の確保等のために、統括保健師の配置、組織横断的なマネジメント体制の充実を図ることが求められている。

事例発表

「青森県在宅保健師の会」の活動の概要について

青森県在宅保健師の会 会長 新井山 洋子

設立26年目となり、会では、在宅・現職保健師保健所ブロック別研修等研修会の他、保健所保健師支援事業、市町村新任等保健師育成支援事業を実施している。

その他、以下の「ほっこり会」など会員自身が主体となり活動する団体への助成事業を実施。活動の対象は年齢を限定しておらず、これまで21団体に助成を行ってきた。助成終了後、継続している団体も多い。

南部町小波田地区「ほっこり会」サロン活動

青森県在宅保健師の会会員 能登 富枝・東山 恵子

地区住民を対象に、毎月2回サロンを開催。寝たきり予防のための体操は毎回実施し、地域の高齢者が活用できる小物作りや健康講話等を行っている。

参加者からは、サロンが交流の場・生きがいづくりにつながっているなど肯定的な意見をもらっているが、男性や若い世代の参加者が少ないなどの課題がある。

石川県在宅保健活動者連絡協議会「虹の会」の活動について ～専門職能を活かして住民の健康づくりを支援する～

石川県在宅保健活動者連絡協議会 会長 川坂 君江

会員は、保健師の他、看護師や助産師、栄養士など地域保健関係職種が加入している。

事業のひとつとして認知症予防をテーマとした健康劇を実施している。会員が脚本も担当し、劇の後に「ボケない小唄」を合唱する参加型教室として開催。また、令和6年度新規事業として、国保連合会が実施する重複多剤投与通知事業者への電話による服薬状況確認を行う予定である。

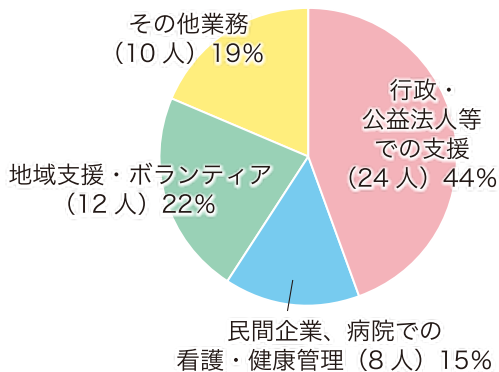
令和6年1月に発生した能登半島地震について、現段階では虹の会への支援要請はないが、避難所での健康管理に携わっている会員もあり、今後何らかの形での支援を検討している。

ひまわりの会に関するアンケート調査結果

今年3月に、総会の案内とともに送付したアンケートにご協力いただきありがとうございました。アンケートには45名の方にご協力をいただきました。

○現在の仕事について（回答人数 45名）

回答は、4グループに分類し、その結果は下図のとおりです。ボランティアと市役所等行政での支援業務等複数のグループにあてはまる回答をしている方は、それぞれに計上しています。各項目の内訳は、下記のとおりでした。



行政・公益法人等での支援	乳幼児健康相談、家庭訪問、介護予防、特定保健指導など
民間企業、病院での看護・健康管理	職員の健康管理、特定保健指導、デイサービスなど
地域支援・ボランティア	母子支援、地域サロン、チャイルドラインなど
その他業務	審査委員、評議員、在宅医療・介護の支援推進事業など

◎令和6年度会員登録状況

(6月末現在)

年齢	人数	割合
30歳代	3	5.5%
40歳代	4	7.3%
50歳代	11	20.0%
60歳代	21	38.2%
70歳代	16	29.0%
合 計	55	100%

新 会 員 募 集 し て い ま す !!

ひまわりの会は、研修会の開催や国保連合会が行う県内各保険者への保健事業支援に協力しています。

お近くに在宅で活動されている方や、退職された方がいらっしゃいましたら、ぜひお誘いください。お問い合わせや、ご入会希望の方は事務局（国保連合会保健介護福祉課）までお知らせください。

編集室

55歳の時、サンペルラ志摩の泊研修で、ライフプランとして趣味を持つ大切さを学び、煎茶、太極拳を始めました。そして、今、10年以上続いている趣味が煎茶、筋トレ（アウター及びインナーマッスル）、俳句です。

先日、吟行俳句で伊賀市柘植町へ。柘植は芭蕉の生誕地とされていますが、その城址で一句「古井戸に水はありしか実梅落つ」

俳句とは、一瞬をとらえて五七五であらわすことのできるポエムです。

関心のある方はぜひお声がけください。

山田 法子

ひまわりの会
事務局新メンバー紹介

事務局長：植村 郁矢

事務局次長兼保健介護福祉課長：海住 哲司

健康づくり係

係長：下村 誠

主任：尾上 郁美

横山 南

主事：大平 真鈴

松下 梨花

どうぞよろしくお願い申し上げます。